

⑥⑥ “主体的に避難する力を育む”ための防災教育の取り組み

受賞機関 群馬県 県土整備部 砂防課

キーワード 防災教育、教材、主体的に避難する力、わがこと、小学生

全建賞審査委員会の評価ポイント

教育委員会と連携し、教員の負担軽減に配慮しつつ、各学校が地域の災害写真を選べるオリジナル教材を開発するとともに、5校でのモデル授業を行い、教員の意見を反映した段階的な防災教育プログラムを構築し、令和8年度から富岡市内全小学校で継続的に実施できる体制を整えた点が評価された。

1. はじめに

「自分だけは大丈夫」という意識が根強く残り、避難せずに土砂災害に遭い、全国で毎年多くの死者が発生している。

群馬県でも、令和元年東日本台風に伴う土砂災害により4名の尊い命が失われており、「逃げない」という意識を変えるため、更なる取組が必要であると考えた。群馬県県土整備部砂防課では、主体的な避難行動を促進するために、土砂災害警戒区域の指定や住民主体の防災マップ作成等に取り組んでいる。

2. 事業の概要

このような課題を踏まえ、「自分だけは大丈夫」ではなく、「自分が率先して逃げる」という防災意識を醸成するには、子どもの頃から「主体的に避難する力を育む」防災教育が重要である。

一方で、県内小学校の約30%で防災教育が実施されておらず、その主な理由は、「教員が多忙で時間がない」、「指導方法がわからない」であった（令和6年度県教育委員会アンケート結果）。そこで、防災教育を効果的に普及させるためには、多忙な教員が負担を抑えて指導できる教材が必要であると考え、令和5年度から小学校高学年（4～6年生）を対象とした防災教育教材の作成に着手した。令和6年度に県内5校でモデル授業を行い、教員の意見を反映しながら、令和7年度に教材を完成させて県内の各小学校へ配布した。



モデル授業

3. 事業の成果

教材は、教員の負担軽減と学習効果の向上を図るため、次の3点の工夫をした。

1) 教員が取り組みやすい教材

初めて防災教育を行う教員でも、多忙な中で負担を抑えて指導できるよう、授業用スライド、学習指導案、ワークシートや副読本等の教材を作成した。

2) 児童の理解が深まる段階的なテーマ設定

児童が「自ら判断して避難する力」を身につけられるよう、理解が段階的に深まる4つのテーマを設定した。

3) 児童の興味・関心を高める工夫

視覚や聴覚に訴える教材として、動画、アニメーションや県内の災害写真を取り入れた。



授業用スライド

学習指導案

完成した本教材は、令和7年度に県内78校で活用され、教員からは「資料がわかりやすく、スライド等も準備されているため、すぐに活用できる点がよかった」といった評価を得た。さらに、富岡市や昭和村では、本教材を活用した防災教育が全小学校で継続的に実施される体制が整っており、令和8年度からの本格展開につながった。

加えて、富岡市では、市独自の社会科副読本にも本教材の内容が取り入れられるなど、防災教育が着実に定着しつつある。

4. おわりに

今後は、本教材の全県的な活用と継続的な防災教育の定着を図るとともに、低学年向け教材の整備を進め、学年に応じた切れ目のない教育体系を構築していく。また、教育委員会や関係機関と連携しながら、更なる普及・啓発を図り、児童一人ひとりが自ら判断して避難する力を育成し、地域防災力の向上と「逃げ遅れによる死者ゼロ」の実現を目指す。

賛助会員 (株)アイ・ディー・エー